

次期町長選に出馬するのか

出馬を決意

地方分権改革により、国と地方の役割分担、権限移譲など地方行財政の運営のあり方も変わってきた。平成の大合併で、県内の市町村数は45市町村へと激減し、わが町は現在のところ単独の道を歩いている。町長のこれまでの発言から、まだ志布志市との合併の道は閉ざされたわけではない。本年12月の任期満了を目前に、次期町長選に出馬するのか。

出馬を決意

町長

現在も多くの課題を抱えており、選挙公約の中にも積み残した政策がある。これらの課題の解決が私の使命であると捉え、新たなまちづくりへの挑戦と思い、次期町長選挙に出馬する。



吉原 信雄 議員

これまでの公約を振り返って

吉原議員

一期目と二期目の公約はそれぞれ6項目あった。公約は政治姿勢が表れるものであり、経済的、政治的かつ長期的な展望を見通す町長としての能力が問われる。このような視点から、一期目の公約についてどうであったか。

おおむね達成できた

町長

ベテランズクラブ構想により、高齢者福祉推進策として生涯健康、生涯現役の風土づくりを目指してシルバー人材センターと鹿屋体育大学との連携事業で進め、その目的はおおむね達成できた。新規就農者の確保や農地の流動化、農作業受委託、環境保全型農業の推進、農業法人の創設などを目的とした産業公社構想については、農業振興センターを立ち上げた。公有地と民間資本の活

用については、分譲マンションや、県共済住宅を町営住宅として整備し、併せて企業立地にも力を注ぎ初期の目的は達成できた。

実現に至らなかったものは、スーパースタジアム、大崎武道城、湧水文化構想がある。プロジェクトごとに企画書を作成し、多くの課題について関係機関等との協議をしたが、未だにその糸口が見出せず残念である。

二期目公約の感想は

吉原議員

二期目の公約について、実現できた点、実現できなかった点についてどうであったか。

ある程度前進できた

町長

合併問題は、住民アンケートの結果を踏まえて志布志市との合併に向けて努めてきた。教育文化の充実については、計画的な学校施設の整備に努めてきた。

産業の創出と若者の定住促進、農業振興、農業基盤の整備等については、着実に進展した。商工業の振興は、今後さらに取り組んでいかなければならないと感じている。安心して暮らせるまちづくりは、自主防災組織の設立に向けた取り組みを展開中である。

健康で活力に満ちた福祉のまちづくりは、まず子育て支援策を実施、近隣福祉ネットワークや福祉給食サービス事業の充実にも努めた。スポーツと観光のまちづくりについては、ビーチスポーツ特設会場をメインとする大隅スポーツ交流拠点プロジェクトを展開、町内外からの参加者も年々増加しているため、メイン会場の環境整備も進めたい。

反省を踏まえ

二期目の公約は

吉原議員

これまで二期、住民福祉の向上のため、たくさ

んの公約を掲げ、それに基づいて当選されたが、マニフェストが十分に実行されたか、いささか疑問に思う町民も多い。公約を信じて投じた住民の票は重い。三期目は、どのような公約を掲げ町長選挙に臨むのか。

具体的にはこれから

町長

三期目の出馬にあたっての選挙公約は、今後、マニフェストの形で示したい。具体的内容については、しばらく時間をいただきたい。